

## スリランカの防災教育

モハメド・アリフ氏（スリランカ、ゴール市長）

ゴール市は一昨年の津波被害で2千人を超える人が死亡した。被災後3・4週間は電気無しで過ごした。海外の国々からは復旧支援に尽力いただき非常に感謝している。現在、政府は防災の新しい省をつくり、市レベルでは学校で子どもの防災・環境の教育を行っている。



## 西条市の防災教育

伊藤宏太郎（西条市長）

一昨年の台風被害を教訓に、防災の基本である「死ぬな、逃げろ、助けろ」を住民に徹底し、防災文化を共有する強い地域社会を作るため、祭りで発達した地域のネットワークなどを活用し、地域の図上訓練を精力的に行っている。今年度からは大人に近い体力や判断力も備わってくる12歳という年齢に着目し、12歳教育にも重点を置いている。



### 論評

マヌ・グプタ氏

（インド、NGO「SEEDS」所長）

津波は初めての経験であり、住民がパニックの中で市長は大勢の死者・被災者にどう対応するか大変だっただろう。復興は大変だが、災害に強い地域社会を作る、とりわけ災害弱者にどう手を差し伸べるかが問題である。教育も重要で、学校の防災教育を出発点にすることが大切である。

### 論評

イアン・デイビス氏

（イギリス、クランフィールド大学客員教授）

西条市の防災教育は防災意識の向上にとっても有効であり、非常に興味深い発表であった。災害弱者である子どもたちが被害に遭わないよう、環境面での配慮を行うとともに、西条市の経験と知識を、広く他の人々とも共有して欲しい。

### 総括

ラジブ・ショウ氏

（京都大学大学院地球環境学助教授）

今回のシンポジウムから4つの重要な教訓を学んだ。

1つ目は、環境・災害管理・防災に関する問題を解決するためには、プラス思考で物事を捉えること。2つ目は、地域で中心となる人物を探すことや、人物を作り出すこと。そのためにも、子どもの教育が重要である。3つ目は、セルフマネジメント。政治体制や首長が替わっても継続できる仕組みを住民に根付かせることが重要。4つ目は、コミュニティベースで良い仕事をしていくこと。小さな活動でも有効な活動であれば、どんどん広がっていく。

今後もこのような場で話し合っていくことの意義は、大きいものがある。



## 子どもたちに自己管理の力を

河邊隆也氏（国際芸術技術協力機構理事長）

災害に適切な対応をするためには、自助・共助・公助の3要素が求められる。この自助の部分として、子どもの時から自立できる力をつけるためのプログラムを作った。早くから自己管理ができるよう教育することは、子どもたちの一生を左右する重要なことである。このプログラム教育により子どもたちは、自ら節水するなどの効果が現れてきた。



### 論評

イアン・デイビス氏

（イギリス、クランフィールド大学客員教授）

ある専門家が防災に対する一番の武器は、備えのできたコミュニティであると指摘していた。良い備えとは教育であり、今は分からなくても20年、30年経った将来、対応できる子どもたちを育成することは、重要なテーマである。

## うみまるの海知識 Q&A

Q：海上災害とはどのようなもの？

A：海上災害とは主として、海への油などの排出や、海上火災を言いますが、広範な意味では、災害（暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火、その他の異常な自然現象、大規模な火事・爆発、放射性物質の大量放出、大規模海難など）のうち、海で起こったものや海に及んだものをいいます。

西条での海上災害は、高潮（低気圧によって海水面が著しく上昇すること）、津波の起こる可能性が高いと考えられています。台風災害は西条も毎年影響を受けており、平成16年の夏から秋にかけての台風は、流木による洪水災害を引き起こし、西条・新居浜を中心とした東予地方に大きな被害を与えました。この被害を引き起こした流木は、四国中央市から今治市に至る港内や沖合いの広い範囲に漂い、国・県・市による除去作業は長期間に及びました。

この流木による被害は、船舶の航行に多大な影響を与えましたが、人への被害は幸いにもありませんでした。



海上保安庁  
マスコットキャラクター  
うみまる



## 愛媛県砂防ボランティア協会による

### 土砂災害防止のための砂防学習会 開催

去る7月11日、神戸小学校6年生の児童を対象に愛媛県砂防ボランティア協会（松本康夫会長）による「土砂災害防止のための砂防学習会」が開催されました。

はじめに愛媛県砂防課の西井課長や砂防ボランティア会員による校内学習が行われ、子どもたちは県内の土砂災害や防災などについて学びました。

校内学習の後、避難場所の確認や、県の災害緊急工事を終えた「大保木谷川堰堤」を見学。子どもたちは「堰堤の仕組みがよく分かった」「堰堤を見ることができて良かった」など、眼を輝かせながら感想を語っていました。



◀砂防堰堤の仕組みについて、砂防ボランティア会員からの説明に聞き入る子どもたち。

写真提供：愛媛県